

# 神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町 39 番 7 号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃

電話 (078) 341-4490

FAX (078) 341-4539

http://nssk-kobeshoten.org/

口座振替 01110-2-10517

### 今年の標語

「来てみませんか」と誘える教会を目指そう。

### 努力目標

- 聖書と聖歌に親しむ。
- ホームページの活用。
- 信徒一人ひとり教会活動に参画しよう。
- 地域との交流促進。

### 聖語

キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです。(エペソ2:22)

## 教会記念日説教 (抜粋)

わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。(ヨハネによる福音書14:12)

主教 アンデレ 中村 豊

本日は神戸昇天教会の教会記念日ですが、管理主教の磯 主教がご都合で巡錫にお越しになれないため、代理で私が参っております。

この後、2名の方の堅信礼がありますが、この人たちのこれからの信仰生活の上に、神様の豊かな祝福と導きをお祈り申し上げます。

◇ ◇ ◇

本日は、ヨハネ福音書 14 章のイエスの昇天に関わる言葉について共に学びたいと思います。

「わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる」に続いて、「わたしが父のもとへ行くからである」と言われています。

イエスの昇天によって、パレスチナ地方に限られていた神の宣教活動が世界各地に広められました。それはイエスの復活を信じた人たちが、責任をもって担わなければ実現しないことでした。

しかしそこには弟子たちがイエスと共に生活することによって学んだ筈のことへの反省も多く含まれているのです。



2000 年前のエルサレムの教会は使徒たちの宣教活動により、多くのユダヤ人がキリスト教に回心し、教会が著しく成長しました。

このような中、福祉活動の一環として、経済的に困窮している寡婦へ食糧を配給しておりました。

そこには外国で生まれ、様々な事情でユダヤの国に住んでいた人たちもおりました。この人たち、つまりギリシヤ語しか話せないユダヤ人よりも、ヘブル語(アラム語)を話すユダヤ人への配給量の方が多いとの苦情が教会に寄せられたのです。

困窮下にある者に対する配慮に言語や文化、出自の違いで差異があつていいのだろうかという問題定義でした。そして、このよ

うな不平等を黙認しているように見受けられる、教会の霊的指導者である使徒たちの姿勢を問題視したのです。

使徒たちは、生前のイエスが、謙遜な姿であらゆる人たちと接し、寡婦の息子が亡くなった時、深く憐れんで息子を生き返らせ、母親に返された奇跡などを思い出したことでしょう。しかし自分たちと言えは苦しんでいる人々を差別していたことに気付き、反省したのでした。

教会の人々と相談した使徒たちは、「あなたがたの中から、“霊”と知恵に満ちた評判の良い人を7人選びなさい。彼らにその仕事を任せよう。わたしたちは、祈りと御言葉の奉仕に専念する(2-4節)」ということで、信徒7人が選出され、使徒たちが祈って手を置くことによって、「悩む人、悲しむ人、病気の人、貧しい人、その他災いのうちにある人びとに仕える(日本聖公会祈祷書 473 頁)」ため、新たな奉仕者であるディーコン(執事・助祭)という職務が生まれ、これによって教会の業が大きな広がりを見せたのです。

◇ ◇ ◇

その後、もっと大きな問題が起きました。福音宣教はサマリアから小アジアに至るといふ広がりをみせました。当初はユダヤ人に対する伝道が目的でしたが、次第に外国人も礼拝や集会に参加するようになりました。

### 定例集会

日 午前 7 時 早朝聖餐式  
 " 9 時 15 分 教会学校  
 " 10 時 30 分 聖餐式・説教  
 午後 6 時 夕の礼拝

火 午前 10 時 30 分 聖書研究会  
 土 午前 10 時 30 分 教会掃除  
 (ご奉仕をお願いします)

同時にファリサイ派ユダヤ人など、保守的な考えをもつ人たちはキリスト教徒になりました。

ところが彼らは、ユダヤ人以外の人にも割礼を受けさせるべきであると主張しだしたのです。

この問題を放置すればキリスト教は単なる地方の一宗教になってしまいます。使徒や長老たちはエルサレムに集まり協議した結果、割礼の有無に拘わらず、聖霊の働きによって洗礼を受けた人はすべて教会の枝につながれるとの見解で一致をみましました(使徒言行録 15 章)。その結果、福音はローマ帝国の中心地ローマにまで伝えられ、様々な国人が仲間に加えられたのです。この様にして、文化や人種の違いを受容しながら教会が発展しましたが、それぞれの教会は画一的ではなく、生活環境、言語や習慣などが異なる国や地域の特殊性を尊重しながら一致を保ったのです。

◇ ◇ ◇

原始教会から私たちが学ぶことは、新しい共同体である教会の特徴は、彼等が復活の主に出会うことによって劇的に一挙に変えられたということですが、それは現実との戦いの場所を変えられてきたのです。弟子たちの人生観、心のなかにある内面的なもの、外面的にでるものがことごとく戦いの場となったのです。必ず古いものに対して新しいものが闘っている。結果そのどちらかが勝ち、また敗北します。それを外から眺めて見ますと、新しいものが勝つ場合もあるし、古いものが勝つ場合もある。しかし多くの場合、長い目でみれば、新しいものが勝ち、キリスト教が次第に広がっていくのです。そこには先入観や予断や偏見を排除し、教会の姿を客観的に見ることが出来る自由な発想、兄弟の共にあるという交り、喜びに溢れた希望などが見出しされるのです。私たちに注目すべきことは、いつも主が色々な形での呼び掛けておられ、そこにビジョンある福音が語られることであって、そのようなところから必ず

希望が生まれてくるのです。

初代教会で起こった保守的でユダヤの伝統に固執するエルサレム教会と異邦人伝道を強調するアンティオキア教会の反目があり、あるいは戦前の聖公会がそうでありました。昨日まで親しくつきあっていたものが教会を合同、非合同という立場の相違によって反目するようになりました。

大切なことは神の聖霊は思いのままに働き、キリスト者の小さな群れを新たにすることは決して私たちの力ではない、ということに気付かなければならないのです。

私たちは主の呼び掛けの働きに信頼しつつ、少しばかり人間的なもの、また私たちの奉仕の方法や形を組織化するのです。

しかし、私たちが作った組織を目的化、絶対化してしまうと教会がおかしな方向にどんどん進んでいくのです。古いものを新しいものに変えることが出来るのはただ神の霊しかない。この呼び掛けを個人で、小さなグループで、そして教会で正しく答えることが、私たち一人ひとりを変えられる絶好の機会となるのであります。

◇ ◇ ◇

もう一つ注目しなければならない点は、小アジア、ヨーロッパ大陸への宣教活動に遣わされた使徒たちは誰も単独行動をとっていないということです。誰と一緒に行動するのかで、バルナバとパウロは言い争い、別々に行動することになりましたが(使徒言行録 15 :37~)、それでも宣教旅行を中止することはありませんでした。

神戸教区主教の場合、どうでしょうか。初代フォス主教は、プランマー司祭とともに神戸に 140 年前に上陸しました。残念なことに、同労者であったプランマー司祭はしばらくして病に倒れ、帰国を余儀なくされました。しかし、同じ SPG 派遣の主教や宣教師、水野功伝道師の協力を得ることができ、神戸における女子教育の必要性は、東京のピカステス主教の忠告が大いに役立ちました。

第 2 代目のバジル主教はハイチャーチですが、ケラム修道院創設者ハーバート・ケレー神父や復活修道会創始者のチャールス・ゴア神父の推薦によって主教に就任しました。

しかし、バジル主教の最大の支援者は、かつて副牧師を務めたロンドンの諸聖徒教会や、その後、牧師に就任したマグダレン教会の信徒やその関係者でした。

バジル主教は神戸フェローシップを立ち上げ、その人たちがバジル主教の働きのために祈り、神戸教区の諸教会設立や維持のために献金を献げました。

第 3 代の八代斌助主教の場合は言うまでもありません。多くの人たちが主教を支援しましたが、余りにも忙しいということもあり、神戸フェローシップ書簡をより充実させ、聖書や時代の流れの解説、教会や関係学校の動静などを綴った「ミカエルの友」を発刊し、これを読む神戸教区関係者の賛同や協力を得ることができたのです。

日本におけるキリスト教宣教は困難を極め、厳しい状況が続いておりますが、イエスの弟子たちの真剣な祈りを通して、教会がつくられました。その教会には神の聖霊が降され、世界に向かって宣教の使命が発せられ、神が導かれるままに道を進み、今ある教会になったのです。

私たちがキリストの教会の枝として、天上におられるイエスと愛の絆で結ばれていることが可能となった、その出来事が昇天であったことを学ぶのであります。

